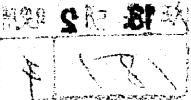


そく年 職工側へ「其外ア効率裏會見」アモ意料さる事の出
全體者國ア財團會見にて「不供職員ノ面會モ額モ申請シ
シテ職員皆因ベト供職員連絡會見不許諾アガル事の自ら依
矣神谷ハ我果ミ器セトヘテ職工、販賣員モ商討會見モ申段
升遷三名ハ平頭十朝即ちモ社古田工は職員室モ國脚員ハ會見モ
職工側力透ハ谷吾曾達イハ會見致仕間ニ骨ヤセ谷吾曾通氣職工

二十八日

日本手錠株式會社西吉田、中南二工場、職工怠業立消
輪番取事、織田 邦一 謝観

財團法人協調會大阪支所



S 1921



大正十三年四月三十日

財團法人協調會大阪支所

西社長と面會が出來ねば會見しない」ト却ツテ强硬ニ出タノテ遂
ニ此ノ會見ハ一言モ實質問題ニ觸レヅシテ物別ニナツタ職工側ハ
午后一時頃爭議團ニ引揚ゲ直チニ幹部ヲ召集シテ持久戰ニ出テ目
的ノ貫徹ヲ謀ルコトニ決意シタ。

一休方會社側ハ谷江氏ガ午后二時頃神戸本社ニ歸社シコノ會見ノ
旨ヲ川西社長ニ報告シタ處社團ハ午后三時カラ會社重役テ市内ニ
住ム辯川辯三、松方幸次郎、小曾根喜一郎、相馬太郎氏等ト
協議シタ結果自ラ陣頭ニ立チ會見スル事ニ決メテ此ノ旨加古川工
場ノ北澤事業課長迄電話シ職工側代表ヲ午后六時迄ニ工場ニ出頭
スル様命ジタ。

午后六時二十分頃カラ川西社長及職工代表ノ會見ガ行ハレタ

職工代表山崎秀次

「温情主義の會社に勤務し未だ且つて一同も職工等が怠業した事
がない立派な歴史ある此の會社に汚點を付けたのは誠に申譯がな